

ひだまり

発行所
聖愛園
〒519-2211
三重県多気郡
多気町丹生4701
TEL 0598-49-3115
FAX 0598-49-3783

東日本大震災から学んだこと

本年三月十一日、太平洋三陸沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、東日本に甚大な被害をもたらしました。被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日でも早い復興を願うものでございます。

さて、昨年八月のひだまりにも書かせていただきましたが、聖愛園の立地している多気町丹生地区は、中央構造線が東西に横断し津波の心配はないというものの、揺れに対する被害の心配される地域であります。

当施設は平成十年の建築で、鉄骨スレート葺平屋建てでかなりの震度には耐えられるのではないかと感じていました。もし、大規模な地震が起きたとして、施設の利用者の状況を考えてみます時に、一般の方々と同じ避難施設で長期間、共に生活していくということは大変厳しいように感じております。

施設に大きな被害がない場合は、ここで生活されるのが一番良いと思えますので、昨年、大規模災害を想定し必要な物品を備蓄するための倉庫を建築

致しました。寝具類につきましては、保護者様をはじめ多くの皆様から提供を受け、利用者及び職員の間も確保することができました。

食料品につきましても、かなりの日数に耐えられるよう備蓄をしています。

ライフラインが壊れることも想定し、洗濯や手洗い等には井戸を掘りましたので役に立つと思います。また、ガスの供給が停止したとして、かまど、薪の準備もしています。炭につきましては、明和町の障害者施設『ありんこ』さんから購入させていただきました。

トイレは、浄化槽の蓋をはずして、その上に鋼管で仮設トイレを設置するような計画をしています。備えあれば憂いなしと申しますが、今後必要と思われるものを準備していきたいと思えます。



また、今回の地震は、福島第一原発にも大きな被害をもたらし、我が国の原子力政策に多くの問題を提起致しました。これからは国を挙げて長期にわたって電

力不足に耐えていかなければならない事態にあると思っております。施設も節電対策として、夜間や朝夕にできるだけ自然の風を利用するように網戸を設置するなど環境整備の工事を実施しました。



食堂にはプラントアのゴーヤカーテンが効果を発揮してくれています。たくさんさんのゴーヤが実り、給食に利用しています。



職員の業務改善提案など知恵を結集し、利用者の方には住みよい、快適な環境、そして質の高い支援が提供できるようにしたいと思えます。

今後ご支援、ご教示賜りまうようお願いします。最後に、暑さ厳しき折、くれぐれもご自愛いただきますようご祈念申し上げます。

聖愛園施設長 戸野和雄

サービス管理責任者 就任にあたって



職員一丸となって
よりよい支援を目指します

四月からサービス管理責任者をさせて頂いております弓木昭人と申します。サービス管理責任者の仕事は「支援計画の作成」が主であり、それにかかるモニタリングやサービス内容のチェックなどが重要となってきます。「支援計画はその方の人生を左右する大変重要なもの」と捉え「このサービス内容が本当に利用者様の為になっているのか？」を常に念頭に置いて計画を作成するようにしています。

日常の業務において質の高いサービスを提供するためには、やはりスタッフ一人ひとりのスキルアップを図る事が重要であると思っております。今年度からより一層、施設内外の研修に力を入れ、スタッフの支援技術の向上、意識の向上を目指してまいります。

まだまだ勉強不足で至らぬ点が多々あると思いますが、ご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。

サービス管理責任者
弓木昭人



例年より早い梅雨明けで夏日となった七月一〇日、第十三回聖愛園夏祭りの開催です。

ワッショイ、ワッショイの威勢の良い掛け声とともに神輿が登場！

日頃、軽い運動として行ってきたヤッターマン体操でみんなのボルテージは最高潮となり、思いおもいに楽器を持って聞き慣れた四曲をみんなで合唱しました。

ピエロさんによる大道芸ショーでは、次から次へと繰り上げられるパフォーマンスに、目が釘付けになるほど感動し、一つひとつの芸が終わると大きな拍手がホールを包みました。『また来てね！』そんな声も拍手の中に聞き取れました。

恒例の盆踊りでは利用者さん、スタッフのみんなも勢和いきいき保存会の皆さんの先導に合わせて、勢和音頭、炭坑節、東京音頭、三曲を踊りきりました。

最後に昨年大好評だった『ダンシングヒーロー』を踊って盛り上がり、大きな拍手の中で夏祭りを締めくくりました。

暑い中、皆さんお疲れさまでした。

ご協力頂きました勢和いきいき保存会の皆さま、ピエロさん、保護者の皆さま、この度はありがとうございました。

夏祭り担当
生活支援員 坂本昭

医務室より

個別リハビリテーションを開始しました

私達支援員は、多職種で構成されていますが、聖愛園の共通理念であり「共に生きるよろこびを」を念頭におき、やさしい支援の輪を組み、利用者様の笑い声や、笑顔が絶えないような支援を行っていきたいと思っています。

の質)を高める事を目標にしています。例えば、食事や排泄、衣類の着脱、入浴などの日常生活を送るために必要な基本動作を訓練します。特に、歩行障害があり車椅子生活の利用者様には、関節可動域訓練、筋力増強訓練などを行っています。また、長時間車椅子に乗っている事で、足のむくみや、だるさなどがある場合は、定期的な下肢の他動・自動運動に加えて、下肢に弾力包帯を巻くことや、エアーマッサージを施行する事で症状を軽減し、さらに下肢静脈血栓症の予防を行っています。



看護師による個別リハビリ

に支援する事です。身体や精神の機能回復だけでなく、身の回りの動作など聖愛園での生活が可能になるように支援し、QOL(生活

- ①利用者様の日常的な健康管理
- ②毎日の内服薬管理
- ③年間2回の健康診断管理
- ④健康相談時の医師の補助
- ⑤歯科診療の補助
- ⑥施設外診療の補助(緊急対応含む)
- ⑦職員の健康管理
- ⑧職員への緊急時対応指導
- ⑨感染予防
- ⑩個別リハビリテーション(本年度より開始しました)
- ⑩の個別リハビリテーションは、WHOの定義にあるように、障害があっても「自分らしく」生活できるように

医務部長 兼 支援部主幹

木下明美

厨房より

大震災で思ったこと

三月十一日に発生した東日本大震災で、家族や家を一度に無くした沢山の人達を、毎日テレビで見ている、とても胸が痛くなりました。

その頃はまだ雪が降っている日もあり、深い悲しみが雪と共に降ってきているように伝わってきて涙が止まりませんでした。毎日、当たり前のよう



一緒に居た家族が、あの一瞬の出来事でバラバラになってしまい、皆が楽しく食卓を囲む事ももう無くなりました。家族と一緒に食べる物は何でも美味しく食べたはずなのに・・・

私はこの震災で改めて、食事を提供するという私達の仕事というのも、やはり大事な仕事なのだと思います。これからは、園の方々には食事の時間を楽しく過ごせるよう、安全で安心な食事を提供させていただきます。

調理員 大西ゆかり

創作活動の時間が増えました!



只今、「塗り絵」と「貼り絵」を中心に創作活動に励んでいます。これまでは一日一回の活動も、今では午前と午後の二回に渡り益々精力的に取り組んでいます。五月は「鯉のぼり」、六月には「カタツムリ」というようにテーマを絞って、季節感を十分に味わえる創作を心掛けています。

完成した作品は、食堂の壁に貼って、利用者様、職員、皆に観ていただいで、食事の時間にいっそうの彩を添えてくれます。また作品は園内に留まらず、毎年、「丹生大師春・秋の大祭」、「勢和地区文化祭」に出品して、地域の方々とのふれあいにも一躍を担っております。

一人ひとり、多彩で個性溢れる作品に、驚きを持って楽しませていただいています。色の組み合わせを考えたり、手先を動かしたりしていただくことで、有意義で豊かな時間を過ごしていただければと思います。

これからは、紙すき・織物・小物作り等にも、利用者様と共にチャレンジしていきたいと思っています。

創作活動担当

生活支援員 田中修

あじさいまつり

六月十二日、今年も地域の恒例行事である『丹生地区あじさいまつり』に参加いたしました。



聖愛園はかき氷店を出店！朝から肌寒く、『かき氷は売れないなあ』と思っ
ていましたが、お昼になるにつれて蒸
し暑くなり、お
昼頃には行列が
出来るかき氷店
になっていまし
た。

まつりに参加
した利用者さん
方も広い会場を
見学し、熱くなっ
た身体にかき氷
は格別の様でし
た！

力していきたいと思えます。

生活支援員

島田真美



長い間ありがとうございました



この度六月末を
もつて、七年と三ヶ
月という長い間、
お世話になった聖
愛園を退職させて
いただきました。
皆様には、ご迷惑もお掛けしまし
たが、何かとご協力をいただいて支えて
頂きました事を心より御礼申し上げま
す。

また、保護者の皆様にも、沢山の
協力をいただき、感謝いたしておいま
す。保護者の皆様から帰りがけに“あ
りがとう”と笑顔を返していただいた
事はとても嬉しく、『良かった』と頑
張る事が出来ました。

わたたくし事ですが、“無駄な事は何
もない”という言葉をいつも心に置き
ながら頑張つてまいりました。そして
沢山の事を勉強させていただきまし
た。最後になりま
したが、聖愛園
の益々のご発展
を心よりお祈り
しています。

事務員

朝田和子

おつかれさまでした!



I have a dream.

「おはようございます。」
会議室、事務所、そしてデイルーム。
雑巾がけから私の一日が始まります。
“どうか皆さんが、今日も無事に健
やかに穏やかな時間を過ごされますよ
うに”と祈りを込めて拭かせていただ
くと、朝から清浄な気持ちでお仕事に
取り組ませていただけます。
事務員という立場では、なかなか利
用者さまと直接触れ合う機会は少ない
のですが、それでも利用者さまの笑顔
に触れると、何とも言えない心に温か
なものを感じます。
私にできることは、そんなちよつと
した触れ合いの中で得た、心を感じる
温かいものを私自身の生活の中で活か
していくことです。それがやがては、
ささやかながら形を変えて社会に還元
されればとても素敵なことだと思いま
す。
利用者さまと社会をつなぐ架け橋の
ような存在となつて、互いが互いを思
いやる、他がために為していくことに
喜びを見出せるような社会の実現のほ
んの一端でも担わせていただきたいと
壮大な企みを描いております。

この四月に聖愛園をデビューしたば
かりなので、毎日毎日が初めての
の連続です。なかなかスマート
にはなまりませんが、皆さん
と和合して、一つ一つの仕事に
真を込めて取り組ませていただ
きます。よろしくお願いいたし
ます。

事務員 中西智子

ご芳志(ご芳名 (敬称省略))
本田敏・本多師子・西村郁三
保護者会・マルエイ

物品寄付(ご芳名 (敬称省略))

- 大谷勲・伊藤福美・石川繁子・岩城央生
- 印南勝・水谷英男・馬野すゑの・西秋治
- 大江喜佐子・本多師子・加藤八洲和
- 山野弘子・松尾陸夫・磯田多恵子
- 武田スミヨ・本田敏・村口喜代時
- 神廣かよ・粉川幸子・竹原伸子
- 伊藤英一・小山よし子・西村郁三
- 山門雅史・海住美智子・谷村勝美
- 中川和子・岸川みち子・森田知恵子
- 山川英彦・中野久子・中野知恵子
- 伊川美義・岡本祐真・坂口富子・尾上薫
- 堀内美志子・浅野弘・小瀧とし
- 中野数見・樫尾智仁
- 山岡隆・戸野和雄・朝田和子
- 西組・皇學館大学・三光運輸
- コスモ美容室・神宮寺・凜生園・内金
- 小山・仏教大学・丹生大師
- とみやま医院

機関紙ひだまり第三十四号を発刊
させていただきました。ご一読いた
だければ幸いに存じます。
聖愛園ホームページ・ブログも宜
しければご覧下さい。

自平成二十二年七月十三日
至平成二十三年七月十二日